

龍谷大学 社会共生実習ニュースレター

Infinity Vol.09

～大学と地域の協働力は無限大∞～

2022.3.22発行

発行元
龍谷大学 社会学部
社会共生実習支援室

〒520-2194
滋賀県大津市瀬田大江町横谷1-5
龍谷大学瀬田キャンパス内
社会共生実習支援室

TEL:077-544-7230
FAX:077-543-7615

E-mail:co-ex@ad.ryukoku.ac.jp



「いくつになっても、出かけられる！～高齢者を元気にする介護ツアー企画～」

ツアー企画のために高齢者の方にインタビューをする受講生たち

「あつまれ！みんなで作る絵本館」を開催

11月6日(土)と7日(日)、「地域エンパワねっと・大津中央」(担当教員：脇田健一教授)では、大津の「まち家オフィス結(ゆい)」にて、受講生たちによるイベント「あつまれ！みんなで作る絵本館」をおこないました。

この企画は昨年度の受講生から引き継いだもので、中央学区自治連合会、中央学区子ども育成連絡協議会、大津市役所都市魅力づくり推進課の方々のご提案や大津市立図書館のご協力のもと「地域の人と人が繋がるきっかけになる場所づくり」を目指して、子どもたちが絵本を自由に読める場づくりに取り組んできました。今回の企画にあたり、絵本の寄付を呼びかけたところ300冊以上の絵本が集まりました。

イベント当日は、多くの親子連れが来てくださり受講生のよみかかせに耳を傾けたり、小学生はシールなどを使ってしおりを作ったりと、終始とても和やかな雰囲気でした。受講生たちからは「これだけ多くの方に来てもらえるとは思っていませんでしたのでとても嬉しい」と喜びの声を聞くことができました。

涙が出るほど嬉しかったです」という感想が聞かれました。受講生たちからは「困っている方の支えになる活動が行えてよかった」との声がありました。



▲スマホクラブ当日の様子



▲イベント終了後に記念撮影

子どもにやさしいまちをつくろう

「子どもにやさしいまちをつくろう」(担当教員：田村公江教授)では、「子どもにやさしいまち」とは何かをテーマに様々な子どもの問題について学習しました。

4月には「CAPセンター・JAPAN」で子どもへの体罰防止講座を受講し、子どもが自分の身を守る方法をワークショップを通して体験しました。子どもの視点で考える大切さ、おとなの果たすべき理由などを学びました。

「かんちゃんの小さな家」では、月に一度開催されているイベントにスタッフとして参加し、10月にはイギリスのすごろくゲーム「ルド」を地域に住むイギリスの方から教えていただき、11月には「あそび村」で紙飛行機や魚釣りなどをして交流を深めました。

受講生たちは「龍大生と学ぶ子どもの権利2021」の発表を夏のオープンキャンパスと平安高等学校でおこないました。

事例カードと条文カードを用意し、子どもの権利を侵害しているかの分類や、事例に当てはまる条文探しを実施しました。実施後のアンケートでは、「当たり前だと思っていたことも、権利を侵害しているものだったと気づいた」「子どもの権利は知っていたが内容は知らなかった」などの声もありました。



▲しおり作成の様子



▲受講生によるよみかかせ

「スマホクラブ」を開催

12月12日(日)、「地域エンパワねっと・大津瀬田東」(担当教員：築地達郎准教授)では、地域の高齢者の皆さんを対象とする「スマホクラブ」を開催しました。この企画は学生が地域のニーズをくみ取りながら企画し、運営しました。「新型コロナのワクチン接種申し込みのためにスマホを使用できるようになりたい」というニーズが高まっているというお話を地元キーパーソンの方から伺ったのがきっかけでした。

当日は、60歳代から90歳代まで20名あまりの皆さんが参加していただき、満員御礼となりました。学生が席を回り、スマホの基礎的な使い方や注意事項などをレクチャーした後、スマホによる写真撮影やネット検索の手法に関する実技講習を行いました。参加者からは、「若い人とともに新しいことにチャレンジできて楽しかった」「孫のような若い人に教えていただき



▲作成したオンラインアンケート



▲授業の様子

2021年度「社会共生実習」活動報告会

1月14日(金)に社会学部「社会共生実習」全プロジェクトの活動報告会を対面とオンラインで開催しました。当日は各実習の連携先の方や一般の方もご参加下さり、受講生たちの発表に熱心に耳を傾けてくださいました。各プロジェクトからの報告内容を簡単にご紹介いたします。

地域エンパワねっと(大津中央)

大津市中央学区自治会長や大津市市役所の職員の方に話を聞く中で「子育て世帯どうしの交流が少ない」という課題を発見しました。この課題に対し、「あつまれ！みんなで作る絵本館」を開催しました。寄付で集まった300冊以上の絵本と大津市図書館の副館長のご協力図書館からお借りした大型絵本の読み聞かせや工作をおこないました。12月には、地域ボランティアの方にご協力いただきマジックショーなどをしました。今回のイベントでは子どもどうしの交流はありましたが親どうしの交流があまりなかったので今後は、親子が一緒に参加できるイベントを考えています。

地域エンパワねっと(大津瀬田東)

ZOOMで住民同士が交流をする尼崎市オンライン公民館の存在を知った受講生が当プロジェクトでも開催できないかと企画しましたが、開催する以前に高齢者の方がインターネットやスマホが使えるのかを確認するために大津市役所市民部 瀬田東市民センター長にお話を聞いたところ「高齢者はスマホ操作に慣れていない」という課題を発見しました。そこで、高齢者の方に事前アンケートを行い12月に「スマホクラブ」を開催しました。当日は20名ほどが参加され大盛況に終わりました。参加者からは「丁寧に説明していただきやっとなり理解できました」などのうれしい声がありました。今回の活動で「スマホクラブ」に対する関心やニーズは非常に高いことが分かり、今後は地域内で繰り返し続けていくことが求められているのではないかと考えます。

「子どもにやさしいまち」を作ろう

「子どもにやさしいまち」とは何かをテーマに様々な子どもに関する問題について『CAPセンター・JAPAN』と『かんちゃんのおきな家』で子どもの権利に関する基礎知識を学びました。夏のオープンキャンパスでは「子どもの権利」について親子で考えるきっかけをつくることができました。また、平安高等学校での発表では事例を条例に当てはめるワークショップを行いました。高校生からは「自分が大人になった時は子どもの権利をしっかり守りたい」との声がありました。プロジェクトの受講生は、少しでも「子どもの権利」について知っていただけて良かったですと語っていました。

雑創の森プレイスクールプレイワーカー

財団法人プレイスクール協会が運営する『雑創の森プレイスクール』と連携し、子どもたちに「創造的な遊び場の提供」をおこなってきました。まず、子どもたちに教える道具の正しい使い方や山や川の危険について学んでから子どもたちと工房で工作をしたり、山の中で鬼ごっこやお手製のブランコで遊び、季節のイベントではナイトハイキングや段ボールで寝床を作ったりしました。子どもたちとの距離も実習を重ねていくごとに縮まりプロジェクトの受講生たちは子どもたちから頼られる存在になりました。

大学は社会共生に何ができるのか—文化財から“マネー”を創出する—

文化財の保護や活用方法などを京都・長浜・大津百町周辺のフィールド調査や講話によって丁寧に学び、「国宝・重要文化財」保有ランキングにおいて全国4位である滋賀県の文化財からどのように“マネー”を生み出すべきかを模索してきました。

その中でプロジェクトの受講生たちは「京都とは違った、大津ならではのゆったりとした空間を活かしながら、少数の観光客から多くのマネーを創出することが大津には必要である。大津に求められる観光客は量より質であると言える」という結論にたどり着き、今後は琵琶湖をはじめとした自然を活かし、文化財と関連付けることで大津でしか味わえない価値を生み出すことが必要だと考えています。

農福連携で地域をつなぐ—「地域で誰もがいきいきと暮らせる共生社会に向けて」

農福連携の現場に行き農業と福祉の課題を発見することを目標に取り組んできました。前期は、学内でトマトやサツマイモを育て、7月からは連携先である障害者支援を行う『縁活(おもや)』へ行きスタッフや利用者の方々とトマトの枝切をして交流を深めました。11月には、くさつFarmers' Marketで『縁活』の田んぼで収穫された稲わらを使用してリースと十字の形をしたアクセサリーを作るワークショップを開催し、訪れる方々には自由に飾りつけをして楽しんでもらいました。プロジェクトの受講生は人と人のつながりの大切さと農作業や出荷作業などを協力しておこなうことが農福連携において必要不可欠なことを学びました。

いくつになっても、出かけられる！～高齢者を元気にする介護ツアー企画～

高齢者の方の生活課題を理解し高齢者の方に楽しんでいただけるツアーを企画し、3月の実施を目指しています。企画するにあたり高齢者の方々に「どのようなくらへ行きたいか」などのインタビューをおこないました。その後、6つのグループに分かれ、ツアーの企画立案下見をし、検討を重ねた結果、宇治ツアーと水族館ツアーに決定しました。今後は高齢者ならではの課題を考慮しながらツアーの実施に向けて準備を進めていきます。(後日、新型コロナウイルスの影響によりツアーの実施を見送ることに決定いたしました)。

多文化共生のコミュニティ・デザイン～定住外国人にとって住みやすい日本になるには？～

在日外国人が住みやすい日本にしていくにはどうすればいいのかを考えてきました。前期は差別や東九条、在日外国人の歴史と在日外国人の制度を学びました。後期には、東九条のコミュニティカフェ『ほっこり』で日本語のサポートなどをおこない、『希望の家児童館』では子どもたちと一緒に遊んだり宿題をしました。また、NPO法人京都コリアン生活支援センター『エルファ』で在日外国人とスタッフの方にインタビューをおこないました。今後は聞き取った内容を冊子にまとめ平安高等学校で授業を行う予定です。

障がいをもつ子どもたちの放課後支援

障がいをもつ子どもたちの具体的な関わり方や、障がいをもつ方との共生社会について考えました。実習先である『放課後等デイサービスゆにこ』の方々とお話を聞き、オリエンテーションや個別指導を受けたあと、子どもたちの行動に気を配りながら一緒に遊び、宿題をし、おやつを食べて過ごし、その日の振り返りをスタッフの方としました。また、『放課後等デイサービスゆにこ』を利用されている子どもの保護者の方にもお話を聞き、不安や葛藤など受講生たちが子どもと交流するだけでは知りえなかった事を知ることができ、実習を重ねるたびに子どもたちとの距離が縮まったことを実感して多くのことを学ぶことができました。また、障がいをもつ方に対し偏見を持たず個性を見てもらいたいと語っていました。

自治体をPRしてみる！

大阪府門真市の自治体PR動画を作成する為に、動画の撮影方法や映像の編集の仕方を外部講師の方から学びました。そして、門真市役所の広報職員の方とブレインストーミングをおこない実習で1番大変だったネタ探しをしました。また、門真市に何度も足を運びインタビューと撮影をおこないました。プロジェクトの受講生は、編集作業では初めて使用するアプリが新鮮で楽しく、門真市長にお会いできたことも楽しかったと語っていました。全7チームが作成した動画は大阪府門真市のHPに掲載される予定ですのでぜひご覧ください。

Webサイト・SNSでは最新の情報を随時更新中♪ ～2022年度の活動にもご期待ください！～



社会共生実習
Webサイト



社会共生実習
Twitter



社会共生実習
Instagram



社会共生実習
Facebook



エンパワ
Twitter



坂本アピオ+α
Facebook

誌面のアイデア募集！

・読んでみたい記事
・知りたい情報 etc...
ご意見・ご感想もお待ちしております。社会共生実習支援室までお寄せください。